

weekly news

西の風



お客さまの幸せづくり
たましん

<https://www.tamashin.jp>

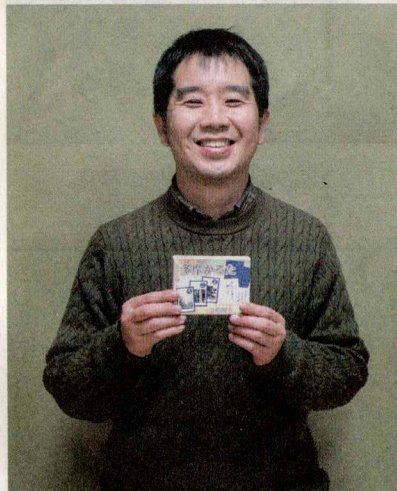
おかげさまで創業45周年 地元密着の不動産業者

OTAMA 大多摩開発(株)



JR 五日市線 武蔵五日市駅前 本店 あきる野市館谷 222 番地 9
TEL:042-595-0505 FAX:042-595-0506 HP:<https://www.ootama.co.jp>

楽しく学べる「多摩かるた」 リニューアルして販売開始



伊藤章裕さん 羽村市

羽村市羽東の伊藤章裕さん(47)が昨年1月に発売した「多摩かるた」(1200円)をこのほどリニューアルし、販売を開始した。三多摩全域を紹介したかるたで、地域の歴史や名所などを遊びながら学べる。リニューアルでは漢字にルビを振り、より小さな子どもでも楽しめるようになった。「ま」の絵札は払沢の滝(檜原村)の写真

多摩かるたを手にする伊藤さん

伊藤さんはあきる野市牛沼出身。南秋留小、秋多中、都立砂川高校、駿河台大学を卒業した多摩っ子。卒業後はシステム開発の会社に勤めた後、30歳で独立。現在はソフトウェアや

で、読み札は「まだこおらない払沢のたき」。「せ」の札には「せかいとこうりゅうよこたきち」といった具合に多摩の魅力が盛り込まれ、解説書には絵札ごとに説明が細かく書かれている。



山崎さんのだるまは鼻が高く彫りが深い

特徴は、鼻が高く彫りの深い顔と、体の模様の凹凸をはっきりと出す昔ながらの形。だるまの木型、専用の紙も作る職人が少なくなつたことから、材料集めも一苦労だという。小さなだるまを多く作る。近年、金、白、ピンク、黄色のだるまが人気。白は「合格しろ」の縁起を担ぎ受験生に、金色や黄色は金運や財運、ピンクはリラックスマや恋愛運を高めたい人たちに受けられている。

だるま作りは門外不出、独自の作り方を受け継ぎ、すべて手作

年の瀬も迫り、新年の縁起物、だるまの出荷準備が進んでいる。瑞穂町殿ヶ谷で「東京だるま」を製造・販売する山崎美代子さん(61)宅では、庭の作業場に出荷を待つだるまが並ぶ。

山崎さんのだるまの

3代続くだるま作り 正月出店の準備続く

山崎美代子さん

瑞穂町



夫、徳雄
だるま作

業。3月から作業を始め、木型に水に濡らした専用紙を貼り、形が

さんが定年退職後は夫婦で
りをするが増えた



できたらはがす。張り
子は夏の間さらに乾
かし、色付けは9月か

之介さんが創業。母ト
キさん(95)が受け継
ぎ、美代子さん(61)

は3代目。トキさんは
高齡のため、美代子
さんの夫の徳雄さん

ロナの影響で作る数を
控える年が続いた。正
月には出店予定の関東

ら。だるま
によってア
クリル塗
料、水性塗
料と使い分
けオリジナ
ルの色を作
る。最後に
顔や模様を
書くのは、
手の器用な
美代子さん
の仕事。座
りっぱなし
の根気がい
る作業だ。

祖父の鳥
豆佐味天神社(立川市)
から始まり、町の圓福
寺、青梅のだるま市な
ど各地に出店。毎年、
常連客と会えるのがや
りがいという。市が落
ち着く春にはまた、だ
るま作りの準備が始ま
る。

「父は会社員で、だ
るまは母が一人で受け
継いだ。その後は私と
姉：女性ばかりです
が、『女性の作るだる
まは細やかできれい』
と言われるのがうれし
い」とする一方、「材
料も少なくなり、私た
ちの代でおしまいです」
と少し寂し気だった。
出店情報など問い合わせ
は042(557)
2091まで。
(山石)

アプリを開発する「ア
イティーエムクリエイ
ト」を経営している。
自閉症の息子、漢さ
ん(23)と一緒にドラ
イブすることが休日の
楽しみで、多摩地域の
観光地を巡り写真を撮
影してきた。歴史好き
だったこともあり、地
域の歴史や地理など
に興味湧き、掘り下げ
たいと考えるように
なった。

2018年に群馬県
を訪れた際、「上毛か
ら」を目にしたとい
う。県民に愛されてい
ることを知り、「自分



でも多摩を紹介する
たを作りたい」と
思ったことが制作を始
めたきっかけという。
「多摩かるた」は昭
和初期に西多摩村(現
羽村市)で製糸業を営

て完成させた。
現在は「多摩かるた」
をより楽しめるよう、
八高線や西武線、青梅
線などの鉄道の絵札を
そろえると役になり高
得点が得られるなど、

み村議も務め
た羽村春市さ
んらが制作し
た「奥多摩い
ろは歌留多」
を参考にし、
春市さんの孫
で「奥多摩い
ろは歌留多」
を復刻した羽
村伊左雄さん
の助言を受け

独自のルールを考案し
「多摩かるた」の公式
ウェブサイトで紹介し
ている。
伊藤さんは「お正月
に多摩かるたで遊んで
もらい、多摩の魅力を知
ってもらえたらうれ
しい。新たな土産物と
して認知されたら」と
話す。
購入は左のQRコー
ドの公式サイトまたは
羽村市観光案内所、福
生本町の飲食店「ごし
ま」で。
(鋤柄)



公益社団法人 青梅法人会主催

第10回オープンフェスティバル

笑点 新メンバー 桂宮浩 独演会

令和5年

2月1日(水)

会場：霞共益会館
(東京都青梅市野上町2-21-5)
開場：17時
開演：18時～(約90分)



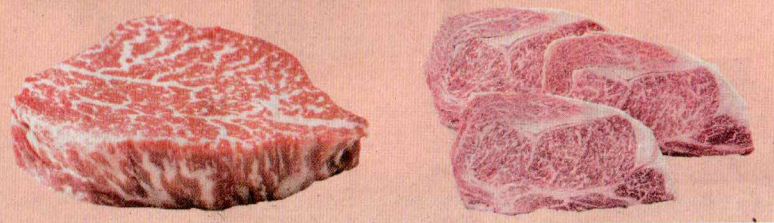
今回も地域社会にお役に立てるよう、以下のお願いをしております。
●災害復旧支援チャリティ募金 ●ペットボトルキャップ
●新品タオルのご寄附(福址施設への寄附)

定員 500名様 入場無料 どなたでもご参加いただけます。
※駐車場のご用意はありますが、出来る限り乗り合わせにてご来場ください
メールまたはFAXでお申し込みください。QRコードからもお申し込みできます。
FAX: 0428-24-8984 メール: info@ome-hojinkai.or.jp



一般家庭から産業給食まで幅広くお手伝いさせていただきます。

西多摩名門食肉問屋



総合食品エスイー株式会社 042(555)2253
ムサシニート 羽村市神明台4丁目1-27